

AEDってご存知ですか？

1 AEDとは

AED(エーイーディー)とはAutomated External Defibrillatorの略語で、日本語では自動体外式除細動器(以下、AED)と言います。

皆さんも医療系のドラマなどで、患者さんに電気ショックをかけて蘇生させる場面を見たことがあるかもしれませんが、この電気ショックを与える医療器具を小型・簡易化したものがAEDです。

内蔵されたコンピューターによって、心臓のリズム(心電図)を自動的に調べ電気ショック(除細動)が必要かどうか決定し、さらにどういう行動(処置)をとるべきか、音声メッセージで指示してくれます。大きさは、A4サイズのノートパソコンくらい、重さ約3kgと非常にコンパクトです。

平成16年7月の法改正で、日本では医師や救急救命士にしか認められていなかった電気ショック(除細動)も、AEDについては一般人にも使用が認められ、3時間程度の講習を受ければ、簡単で確実に操作できるようになりました。

しかし、一部の空港、サッカーの競技場などに設置されているものの、地方都市では機器の設置率が低いのが現状です。今後、各種公共施設などを中心としたAEDの設置が望まれています。

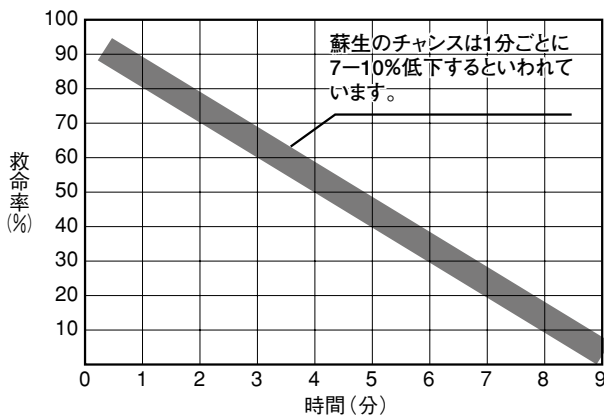


現在、日本で販売されているAED

2 電気ショックの必要性

- ① 食習慣の欧米化や高齢化による心臓突然死の増加
 - ② 日本では年間約3万人の方がこの心臓突然死で亡くなっている(年間交通事故死亡者数約1万人よりもはるかに多い)
 - ③ 心臓突然死の原因の大半が心室細動という重症の不整脈である
 - ④ 心室細動には、電気ショック(除細動)が最も有効
 - ⑤ 心臓停止から電気ショック(除細動)が1分遅れるごとに、救命率は約10%低下(グラフ参照)
 - ⑥ 救急車が、119番通報を受けて現場に到着するまでの時間は、全国平均約6分(救急車が到着した時点で、救命率は40%以下に低下している計算)
- 以上から、心室細動で倒れた人を救命するためには、側に居合わせた人がAEDを使用して、その場で早期に電気ショック(除細動)することが必要だということが分かります。

松前消防署では、AEDの取扱いを含めた心肺蘇生法(心臓マッサージと人工呼吸)の講習会の申込みを受け付けています。まずはお気軽にご連絡ください。



問い合わせ 松前消防署 救急係 ☎984-3404

防災一口メモ 集中豪雨に備えて

集中豪雨とは、比較的短時間に、狭い地域に多量に降る雨をいいます。この集中豪雨は、梅雨の終わりごろによく起こり、予測できないことが多いので、大雨情報を聞いたなら十分な注意が必要です。

特に河川の沿岸や海岸地域では早めの準備を心がけましょう。

◎対策◎

- 停電に備えて、懐中電灯や携帯ラジオを準備する。(予備の電池を忘れずに！)
- 避難に備えて貴重品などの非常持ち出し品を準備する。
- テレビ・ラジオ・インターネットで気象情報にはくれぐれも注意する。
- 浸水などのおそれがあるところでは、家財道具や食料品、衣類、寝具などの生活用品を高い位置へ移動する。
- いつでも避難ができる準備をする。

